2026年11月27日

各　位

会 社 名　　株式会社ハイレックスコーポレーション
代表者名　　代表取締役社長　　寺浦　太郎
（コード番号　7279　東証スタンダード市場）
問合せ先　　専務執行役員　管理本部長　　奥村　　真
（TEL　0797-85-2500）

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026 年3 月6 日に公表しました2026年10月期通期（2025年11月1日～2026年10月31日）の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1．連結業績予想の修正

2026年10月期通期連結業績予想数値の修正（2025年11月1日～2026年10月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	401,000	5,400	7,400	36,850	996.89
今回修正予想（B）	420,000	2,000	5,000	30,000	811.58
増減額（B － A）	19,000	△3,400	△2,400	△6,850	－
増減率（%）	4.7%	△63.0%	△32.4%	△18.6%	－
（ご参考）前期実績（2025年10月期）	304,123	3,391	7,272	8,419	224.87

2．業績予想修正の理由

(1) 売上高

売上高につきましては、中国における販売減少があった一方、米州における販売増加に加え、為替相場が当初の想定よりも円安で推移したことによる海外子会社の売上高の円貨換算額の増加もあり、前回発表予想を上回る見込みとなりました。

(2) 営業利益

利益面につきましては、第4四半期に入り、中国、米州、日本および韓国において想定以上の減益要因が重なり、第4四半期の営業損益について約19億円の損失となる見込みであることから、今回、通期業績予想を修正することといたしました。

① 中国

中国では、中国市場における新興電気自動車メーカーの販売拡大に伴い、当社の主要取引先である既存の中国自動車メーカーの市場シェアが低下したことなどから、第4四半期に販売数量が急減しました。これに伴い、工場の操業度が低下し、固定費負担が増加しました。

また、中国市場における価格競争が厳しさを増す中、主要顧客からの値引き要請に対して粘り強く交渉を続けておりましたが、第4四半期に一定規模の値引きを受け入れる形で妥結し、利益を押し下げました。これに対し、各種コストダウン策を進めたものの、その影響を吸収するには至りませんでした。

② 米州

米州では、中東情勢の影響により材料価格および海上輸送費が上昇する一方、顧客への販売価格への転嫁に時間を要したことから、コスト負担が先行しました。また、メキシコでは、売上および仕入の多くが米ドル建てであるのに対して、人件費の発生はメキシコペソ建てであるため、第3四半期から第4四半期にかけてのメキシコペソ高により、米ドルベースでの労務費負担が増加しました。

加えて、2026年7月に清算を決定した米国の拠点では、一時的な生産性の著しい低下に伴い、労務費が増加しました。これらの要因が重なったことにより、第4四半期の収益性が悪化しました。

③ 日本

日本では、中東情勢の影響による資材価格の上昇に対し、顧客への販売価格への転嫁に時間を要したことから、コスト負担が先行し、第4四半期の減益要因となりました。

④ 韓国

韓国では、顧客から支給を受けるワイヤハーネス等の部品について、一定期間ごとに原材料価格の変動を反映した単価差額の精算を行っております。第4四半期においては、材料市況の大幅な上昇により支給部品の単価が上昇し、利益を押し下げる要因となりました。

上記①から④を中心とする想定以上の減益要因が第4四半期に集中したことから、営業利益は前回発表予想の54億円から20億円へ下方修正いたします。

(3) 経常利益

経常利益につきましては、営業利益の減少等により、前回発表予想の74億円から50億円へ下方修正いたします。

(4) 親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の営業利益、経常利益の減少に加え、スペイン子会社の清算結了に伴う約21億円の特別損失の計上、および現在精査中の減損損失について現時点で合理的に見込まれる影響を織り込んだことから、前回発表予想の368億5千万円から300億円へ下方修正いたします。

なお、現在精査中の減損損失につきましては、内容および金額が確定次第、速やかにお知らせいたします。

以　上